

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400316		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	函館市富岡町1-54-17		
自己評価作成日	平成30年11月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0191400316-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400316-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成31年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者が自分らしく、そして互いに思いやり楽しく過ごせる様、外部との交流も深め、又季節感を味わえるよう行事等を組み込みながら支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道5号線から少し住宅街に入った閑静な住宅街に平成16年12月に開設された改装型木造モルタルユニット(定員:8名)の家庭的雰囲気有している認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。  
 敬老会には、地元の中学校の吹奏楽部の生徒たちが慰問で吹奏楽の演奏会開催や事業所主催の夏祭りや七夕祭りでは、地域のボランティアの協力で民謡や踊りなどの楽しみごとへの支援があったり、近隣の子供たちや住民が参加して交流の機会を設けるなど地域の人々との交流に取り組んでいる。また、一人ひとりのその日の希望に沿って近隣散歩やスーパーでの買い物等で戸外に出かけられるようにしていると共に四季に応じて函館山へのドライブや函館牛乳見物、桜やお花見など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に心に寄り添い、その人らしさを大切にし、穏やかな生活を送れる様努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、ミーティングや日常業務等を通じて、その理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣との学校との交流、子供達と過ごす時間、ボランティアの方々などを招いて一緒に楽しく暮らしていける様努めている。	敬老会には、地元の中学校の吹奏楽部の生徒たちの慰問や事業所主催の夏祭りや七夕祭りでは、地域のボランティアの協力や近隣の子供たちや住民が参加して交流の機会を設けるなど地域の人々との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公共の場へ外出することにより、一般の方と同様に生活出来る事を理解して頂ける様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で利用者の状態報告や認知症が原因で起こる話題をもとに、利用者やそれに関わる職員の対応の仕方等について意見交換をしている	運営推進会議では、事業所の取り組み状況や日常生活の様子など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、担当者に連絡を取り、ケアサービスの変更についても伝えながら、常に協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて相談や助言を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯上玄関の施錠。身体拘束については、職員全員が理解し常にケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為をミーティングや日常業務を通じて話し合い、正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加したり、各職員が利用者の特徴を把握し、虐待防止・行為に繋がらない様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に出席し報告会を開き、利用者が必要としているサービスを話し合い、活用できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更なく、ご家族の皆様にも理解を得ている。今後も変更時は、都度説明を行いご家族の疑問点にも対応できる様努めていく。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時や会議参加以外でも、ホーム見学者の意見を参考にして、運営に反映させる様努めている。	本人・家族等が意見や苦情等を言い表せるように玄関入り口に苦情受付箱を設置しており、そこでの意見や要望等を運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告だけではなく、実際に現場に入り現状を知ってもらい、職員からの提案など直に聞いてもらっている	職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデア等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金アップ・勤続手当の支給など毎年見直され、職員各自も向上心を持って、ケアに取り組んでいく様努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に対し何が足りないのか、職員同士でケアの向上に繋がる様、お互いの良いところを見習い力量を伸ばす様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他施設関係者との交流や情報をもとに、勉強会の開催などをしサービス向上させていく取り組みをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人よりの言葉に耳を傾け、どのように対処していくか話し合い、安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの聞きとりをし、要望等に応える事が出来る様になれる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援の違いも含め、それぞれの思いを組み込み、日常生活に反映出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に暮らしを共にする者同士として、同じ目線で物を見れる様関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人の立場に置き替え物事に取り組み、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族への思い、馴染みの人への思いなどを聞きとり、関係が途切れない様努めている。	事業所主催の行事で地域の子供達や住民との交流、観光名所など四季に応じた外出などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりの中で支え合えるよう、支援し孤立しない様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族等から相談がある場合も必要に応じ、支援できる体制が出来ている様努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中、一人一人の思いや、意向の把握に努め、出来る限り添えられる様検討している。	日常業務やモニタリングを通じて、一人ひとりの意向や要望等を職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりの聞きとりで、自宅での過ごし方或いは、デイサービス・ショートステイなど普段の生活の様子・人間関係など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方や人間関係で心身に及ぼす影響も確認し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良く生活する為、今のケアが正しいか関係者と話し合い、それをもとに介護計画を見直し作成している。	本人、家族の意見や要望、日常業務やモニタリング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行ったケアを記録に落とし、結果職員間で検討し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとられず、その時の利用者の状況や家族の意向も踏まえながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し活用できる様、本人が自らの力を発揮し暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のいる利用者は家族対応で受診されている。それ以外は、定期的な訪問診療・医療連携又は、臨時往診などで医療との信頼関係を気づき適切な医療を受けられるよう支援している。	往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の情報や状態変化などを正確に伝え相談。アドバイスをを受けたり受診など出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と日頃より連絡を取り合っていたり、入院の際にも現状報告、退院時には早く日常生活に戻る様、病院関係者との情報交換等行い良い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で大まかな説明をし同意を得ている。重度化する前に今後のあり方について話し合いの場を設け、事業者で出来る事を伝えそれ以外については本人・家族の意思を尊重出来る様支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル・連絡網の作成など、職員は日頃より発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回入居者も参加し行っている。地震等による停電に備え、非常用ランプなども用意している。近隣の住民の方にも周知した抱き協力体制を築いている。	地域の住民の協力を得て、昼夜を想定した年2回の火災避難訓練を実施している。また、北海道胆振東部地震のブラックアウト(北海道一円の停電)を経験して、停電時の備えの検討をしている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の人格を尊重し、その人に合った言葉かけで対応している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように日常業務やミーティング等で職員間の周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望に添えるよう、ていく、自己決定出来る様な言葉かけをしていく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	各利用者が出来る事を好きな時に行い、天気の良い日は散歩したり、その日を楽しみながら過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の手伝いや気にいられている衣類着用で迷われている時も、相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が主に楽しみとなっている。好むものも共通されている。定期的に提供出来る様にしその人に合った形状にしたり、食事を楽しむ事が出来る様努めている。	時には、出前を取るなど食事が楽しみなものになるよう支援している。また、一人ひとりの好みや力に合わせて職員と一緒に食事の準備や後片付け等をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量が一日を通じ利用者の負担にならない様調整し、一人ひとりの嚥下状態を確認してトロミ対応や刻み食対応などで支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就床時以外で、毎食後口腔ケアの声掛け・介助などで行っている。自立されている方は、見守りで行われている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼夜問わず、時間を見てトイレ誘導をし失禁等の確認をしている。トイレでの排泄が出来る様自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握しており、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	過食・運動不足の解消、消化を助ける食物を多く摂取出来る様、メニューなどにも気を配り予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴を好む人もいれば、入るのをためらう人も中、入浴する事によって気分転換も出来、結果入浴することを楽しみに繋がる様支援している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢も考慮し、昼食後に休息を摂って頂いている。夜間も安心して、良眠出来る様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬についての目的や副作用等は理解しており、状態変により医療とも連携を取り都度対応に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前得意としていた事の再現や、自分で生かしていた役割を楽しみに変えたり、新しい事への試みなど出来る様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出かけたりする様努めている。散歩以外でも、希望によっては、スーパー等にも買い物に行かれる様になり、今後も周りの協力も得て、出かける回数が増える様支援している。	一人ひとりのその日の希望に沿って近隣散歩やスーパーでの買い物等で戸外に出かけられるようにしていると共に四季に応じて函館山へのドライブや函館牛乳見物、桜やお花見など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握して出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族が管理され、利用者はお金を持つ事の大切さを理解されている。必要な物は買物代行をしたり、外出時には職員が付き添い支払い等出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書などのやり取りは自由で、返信時等出来る事は書いてもらい、代筆なども行い支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を見て感じ取れるような展示物を掲示したり、利用者の意見も取り入れたり快適に過ごせる様工夫をしている。	利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には季節毎の飾りつけなどで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に気を付け、いつでも自由に過ごせる様工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋には家族写真や思い出の品などを置き、使い慣れたものは自分で手に取る事が出来、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、安全に配慮しながら使い慣れた家具や身の回りの品が持ち込まれたり、家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部において、各入口に何をする所か絵や文字で掲示。利用者のできることは見守りしながら継続できる様努め、わかることからできることへそれをどう自立に向けていか工夫をしている。		



### 目標達成計画

事業所名 グループホームふるさと

作成日: 平成 31年 2月 25日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	37	利用者と職員が一緒に行う事が出来ない	各利用者の性格などを見極め取り組んでいきたい	各利用者の出来る事を伸ばせる様取り組んでいく	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。